

簡単な研究の歩み

金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域 教授
中谷 壽男

僕の研究の原点は、肉眼解剖学講座の大学院生となり電子顕微鏡を使用して形態の研究を始めたことからです。指導教員と一緒に、電子顕微鏡で形態を観察する対象はどれでも良かったのですが、あまり人が観察していない方面をすることになり、たまたま横隔膜の腹側にあるlymphatic stomaというリンパ管の形態に出会い、その方面の研究をすることになりました。リンパ管の内皮細胞が横隔膜の中皮細胞に向かって伸展し、腹膜腔と横隔膜下リンパ管をつなぐ交通路を形成していることの発見とその形成過程を研究し、リンパ管に関して少し詳しくなり、現在の研究の素地になっています。

そして、金沢大学で、肉眼解剖で見つけた破格を、矢継ぎ早に学会誌に発表し、肉眼解剖学者らしくなってきたかと思っている矢先に、現在の職場である保健学系看護科学領域の教授を務めることになりました（異動時は、短大から4年制になった頃で、医学部保健学科看護学専攻でした）。ここで、元金大教授永川宅和先生、現東大教授の真田弘美先生、現在共同研究をしている金大教授の須釜淳子先生、大桑麻由美先生、現石川県立看護大学教授の紺家千津子先生らと出会い、褥瘡をふくむ皮膚創傷治癒の研究を開始することになりました。留学先で、皮膚科医でも病理医でもないのに母斑などの皮膚疾患のことを研究し、今度は、皮膚創傷のことを研究することになるとは、人生は不思議なものだと思いました。

創傷治癒の研究を行っていて、創傷が治癒する際には、創は収縮し周りの皮膚を引き寄せる、瘢痕には毛包やメラノサイトは再生しないことは分かったが、今以て、筋線維芽細胞がどれくらい創収縮に関与しているのか、肉芽組織に大量に形成されたコラーゲンは消失していくのか、コラーゲンは真皮に見られるような正常な配列をなぜしないのか、瘢痕と正常皮膚との間のコラーゲンのつながりはどのようなものなのか、リンパ管は創傷治癒での役割は何かなど疑問はありながらも、そのまま放置されて、解決できないままです。

現在は、卒業研究、大学院博士前期と後期課程と一緒に研究をしてきて、助教になっている向井加奈恵先生と中島由加里先生と共に研究を進めています。

向井先生は、エストロゲンの皮膚創傷促進作用の検討を行っています。糖尿病マウスや老年マウスの創傷にエストロゲンを直接塗布することで、治癒が促進されることを見出しています。その機構を分子レベルで解明しようとしています。研究内容は既に数編の論文として発表しています。

中島先生は、リンパ管リンパ節切除後のリンパ浮腫の治癒のために、マウスリンパ浮腫モデルの作製や培養下でリンパ管形成の分子機構の解明を試みています。こちらはまだ成果は出ていませんが、マウスの集合リンパ管を切除すると、正常では観察されなかった交通リンパ管が拡張し、迂回路となって、リンパを流すことを見出しました。創傷治癒におけるリンパ管の役割も研究を行っています。

さらに、上記以外に、生体、ご遺体を用いて、静脈注射や筋肉内注射に関する解剖学的注意点や技術的なことの研究も行っています。

正直なところ、医学部の解剖学教室の教授になって、解剖をベースにした教育と研究を行う予定でいたのですが、そちらは教授選に負けて実現せずに、看護学専攻で解剖生理を教えて、皮膚創傷の研究をすることになるとは思いもよらなかったことです。ただ、令和3年3月に退職する今となって振り返ると出会えた方々は良い人たちで、悪くはなかった研究生活だったかと思っています。



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会
2019.09
No.113

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

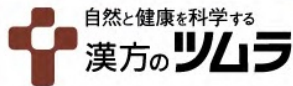
tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail: info@jswh.com

URL : <http://www.jswh.com>

漢方医学と西洋医学の融合により 世界で類のない最高の医療提供に貢献します



<http://www.tsumura.co.jp/>

●お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970 【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

(2017年2月制作) PPCAB02-K (商)



43%*

more granulation

Lassing MC, et al. Negative Pressure Wound Therapy With Controlled Saline Instillation (NPWT): Dressing Properties and Granulation Response In Vivo. Wounds: 2011;23:309-319.

Group	Granulation thickness (mm)
NPWT / ROCF-G (n=12 per group)	~3.2
NPWT / ROCF-V (n=12 per group)	~4.8

*P>0.05



V.A.C. VERAFLOR® Therapy

V.A.C.® Therapy

V.A.C.ULTA® 治療システム

販売名: V.A.C. Ultra治療システム
医療機器承認番号: 22900BZX00204000

NOTE: Specific indications, contraindications, warnings, precautions and safety information exist for KCI products and therapies. Please consult a clinician and product instructions for use prior to application.
©2015, 2018 KCI Licensing, Inc. All rights reserved. Unless otherwise designated, all trademarks are proprietary to KCI Licensing, Inc., its affiliates and/or licensors. PRA-PM-JP-00012 (05/18)
®はKCIの登録商標です。

製造販売元
ケーシーアイ株式会社
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル5F
フリーダイヤル: 0120-897-706
<http://www.kcij.com>

